

科目名称：	ホスピタリティビジネス論	
担当者名：	小林 卓	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
現在の社会はどのような商品においてもホスピタリティの部分を大切にしており、企業が求める人財に対してもその部分を重要に考えている面があるため、色々な角度からのホスピタリティを学び、根本のマインドを醸成できるようにする。		
授業の達成目標・到達目標		
ホスピタリティマインドの醸成。		

ホスピタリティサービスの意味の理解。

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)			100		100
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	結婚式場支配人	10年

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ホスピタリティとは	ホスピタリティの意味合いを確認するとともに、15回の講義を通じてホスピタリティを実践するマインドを創るための説明を実施。	40分
第2回 ホスピタリティに必要なもの	世界的に見た社会情勢から今後の世界を予測し、必要となるホスピタリティ能力を知る。	40分
第3回 場面別ホスピタリティ	場面別の行動を見ることでホスピタリティとは何かを多角的に知る。	40分
第4回 企業とホスピタリティ	企業が掲げる経営理念からホスピタリティを大切にしている企業の考え方を学ぶ。	40分
第5回 ホスピタリティ実例	過程の場面をもとにホスピタリティについてチーム別ディスカッションをする。	40分
第6回 サービスとホスピタリティの違い	二つの違いを学び、よりホスピタリティに溢れたマインドを育む。	40分
第7回 ホスピタリティ実例②	過程の場面をもとにホスピタリティについてチーム別ディスカッションをする。	40分
第8回 インクルーシブ社会とは	通常の対人ホスピタリティではなく、インクルーシブの視点からのホスピタリティを学ぶ。	40分
第9回 インクルーシブな視点で見るホスピタリティ	多様化する社会でのホスピタリティをディスカッション形式で見直す。	40分
第10回 SDGsとは	SDGsを知ることでより今後の社会や企業の在り方を的確に捉える。	40分
第11回 SDGsとホスピタリティ	これからの企業が求めている社会課題を解決できる人材を育む。	40分
第12回 SDGsワークショップ(チームディスカッションで創り上げる)	17個の課題をもとに何をすればどんな解決ができるかをチームディスカッションの準備。	40分
第13回 ワークショップ発表①	前回で出来上がったものの発表準備。	40分
第14回 ワークショップ発表②	前回で出来上がったものの発表準備。	40分
第15回 ありがとう表彰	講義を通じて育んだそれぞれのホスピタリティマインドを表彰する。	40分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は実施しない。 レポートにて評価する(100%)		
課題に対するフィードバック		
講義中にチーム別ディスカッションを行い発表をしてもらうことで、学生の理解度を確認し必要に応じてフィードバックを行う		
教科書・参考書		
教科書は指定しない。授業の都度レジュメを配布する。参考文献はその都度指示する。		